

# 令和4年度 学校評価総括表

阿波市立一条小学校

- 1 学校教育目標 一人一人を生かした人間尊重の教育  
 ~自他の命を大切にし、共にたくましく社会を生き抜く児童の育成~
- 2 重点目標 ○人権教育の充実 ○確かな学力の育成 ○健康・安全教育の充実
- 3 総括表

評価項目	考察（成果と課題）	評価	次年度への改善点等
人権教育・道徳教育の充実	<p>「先生方は、いじめや差別のない学級や学校にしようとしている」「友だちと仲よく過ごすことができた」「自分は、友達にやさしくできた」に対して、児童の肯定的な回答はそれぞれ90%、92%、86%であり、昨年度よりも8~3ポイントの減少がみられた。また、「先生は、一人一人の子どもの人権を大切にしながら、豊かな心を育て、いじめの防止に取り組んでいる」「子どもには、いじめをなくし、人権を大切にしようとする気持ちや態度が育ってきている」「先生は、地域や保護者と連携を図りながら、学年に応じた人権教育を進めている」に対して、保護者の肯定的な回答はそれぞれ85%、81%、89%であり、昨年度よりも3~14ポイントの減少がみられた。人権問題を自分の身近な問題としてとらえ、友達や自分の周りにいる人を大切にしていかなければならないという意識を高めていくとともに、地域に対する誇りや地域を大切にしていこうとする態度や実践力を育てていかなければならない。今後も、子どもや保護者の願いをしっかりと受け止め、人権教育・道徳教育の充実を図らなければならない。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域とともに体験的に学ぶ人権学習の推進</li> <li>・人権教育における研修の充実</li> <li>・SWPBS（学校全体で取り組むポジティブな行動支援）の充実</li> </ul>
授業改善及び学力の向上	<p>「学校の授業はわかりやすい」「毎日宿題を出すことができた」「家でも、学校でもたくさん読書をした」「タブレットやホワイトボードを使って学習したり、発表したりするのは楽しくて、勉強がよくわかる」に対して、児童の肯定的な回答はそれぞれ95%、85%、67%、87%であり、昨年度よりも9~14ポイントの減少がみられた。児童が学習に対して意欲をもって臨んでいくために、「わかった」「できるようになった」という達成感や満足感を持たせる授業が行えるよう、さらなる「授業力の向上」に努めていくとともに、授業改善を図り、各教科の基礎・基本を定着させ、学力向上に努めていく。</p> <p>「先生は、子どもたちが勉強の内容を理解しているかどうかをよく把握し、わかりやすい授業をしてくれている」「家庭では、子どもたちの宿題ができていっているかどうかチェックしている」「先生は、『読む』『書く』『話す』を伸ばすために、読書や音読、作文、発表する学習を熱心にすすめてくれている」「学校が力を入れている『情報教育』は、現在や将来の子どもたちにとって、とても役立つ勉強である」に対して、保護者の肯定的な回答はそれぞれ89%、82%、79%、92%であり、昨年度よりも1~11ポイントの減少がみられた。「宿題のチェック」については、子どもの学力を知り、学習環境が整うなどのメリットもあることから、今後も家庭との連携を図りながら、家庭学習習慣の確立に努めていかなければならない。また、TPCが一人一台配布されているが、実際にどのように活用しているのか、参観する機会がなかったり、情報が断片的であったことが要因として考えられる。今後も、本校の取り組みをわかっていただくために積極的に啓発をすすめていく。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力実行プランの改善と実践の充実</li> <li>・言語活動の充実や学習規律の徹底</li> <li>・ユニバーサルデザインに基づく授業づくり</li> <li>・家庭学習のサポート</li> <li>・SWPBS（学校全体で取り組むポジティブな行動支援）の充実</li> </ul>

評価項目	考察（成果と課題）	評価	次年度への改善点等
体力の向上及び健康の保持増進	<p>「私は、体育の時間や休み時間にしっかりからだを動かすことができた」「早寝・早起き・朝ご飯」ができています」「わたしは、自分の健康を守るためによくがんばっている」「わたしは、ノーメディアデーの日に、テレビを見たり、ゲームをしたりする以外のことができた」に対して、児童の肯定的な回答はそれぞれ92%、77%、91%、77%となり、昨年度よりも3～16ポイントの減少がみられた。進極化の傾向がみられる。今年度も感染症対策により学校においても、体育的行事については十分な活動ができたとは言い難い。今後はより一層、体育の授業での運動量の確保や業間休みにおける活動等の充実を図り、体力向上に努めていく必要がある。</p> <p>「学校では、体育の時間や休み時間を通して、子どもの健康・体力づくりができています」「学校がすすめている『いきいきカード』や『ノーメディアデー』は、子どもたちの健康を育てるために役立っている」に対して、保護者の肯定的な回答はそれぞれ96%、75%であった。「いきいきカード」や「ノーメディアデー」における本校の取り組みを全保護者に分かっていたらけるように啓発していくとともに、効果的な取組について考えていく必要がある。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体力向上に関する取組の啓発</li> <li>・望ましい基本的生活習慣の確立</li> <li>・健康の保持増進</li> <li>・食育の推進</li> </ul>
生徒指導の充実	<p>「先生方は、自分の頑張りを認め、ほめたり、励ましたりしてくれる」「先生は、困ったり悩んだりしたときには相談にのってくれる」「先生方は、まちがったことをしたら、きちんと注意してくれる」「あいさつ、自分も人も大切にしよう、ふわふわことばを使おう、の3つのミッションができた」に対して、児童の肯定的な回答はそれぞれ93%、92%、90%、87%となり、昨年度よりも3～9ポイントの減少がみられた。教師と児童一人一人の人間関係をより望ましいものにするために、教師から認められることを喜びと感じたり、学級にいることへの不安感が取り除かれることによって、大きく変化する。今後は、児童が相談しやすい雰囲気をつくるとともに、日常生活の把握に努めていく。</p> <p>「先生は、子どもの頑張りを認め、子どもや保護者からの相談に対しても、親切に対応してくれている」「子どもの頑張りを認め、褒めたり励ましたりしている」「先生は、子どもの間違っただ行動をきちんと指導してくれている」に対して、保護者の肯定的な回答はそれぞれ88%、99%、86%となり、昨年度よりも、9～10ポイントの減少がみられた。教職員が迅速な対応、対応過程、対応結果などに留意しながら、事案一つ一つに、丁寧に対応した取組を推進しているが、肯定的な回答割合が減少している。今後は、より一層家庭との信頼関係を構築していく必要がある。</p>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SWPBS（学校全体で取り組むポジティブな行動支援）の充実</li> <li>・家庭・地域・関係諸機関との連携</li> <li>・情報共有に努め、チームでの対応</li> </ul>

評価項目	考察（成果と課題）	評価	次年度への改善点等
防災教育，安全教育の徹底	<p>「わたしは，学校の行き帰りや，自転車に乗るときは交通安全のルールを守っている」「地震や火事，不審者があらわれたときなどに，どうやって逃げたらよいか，きちんと教えてもらっている」「一条小学校は，いつもきれいで，遊びや勉強が楽しく，安全にできるところだ」に対して，児童の肯定的な回答はそれぞれ97%，96%，91%となり，昨年度とほぼ同様の結果であった。</p> <p>また，「学校は，子どもが交通ルールを守って，安全に登下校ができるよう指導をしてくれている」「子どもに何か緊急事態があったとき，すぐに学校と家庭との連絡をとることができる」「学校の施設・設備は，点検や安全への配慮がされていて，教育環境が整っている」に対して，保護者の肯定的な回答はそれぞれ93%，93%，97%となり，昨年度よりも，0～3ポイントの向上がみられた。</p> <p>交通の危険性に対する認識がまだ十分ではないため，様々な機会を通じて，今後とも継続的に安全教育に取り組む必要がある。そして，子供たちの成長のためには，学校と家庭が連携していかなければならない。連携を図ることで，適切に対応することができる。そのためにも，保護者と学校が信頼関係を確立し，子どもを育てる良きパートナーになっておくことは大切である。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自主防災組織との合同訓練の実施</li> <li>・ 防災教育，安全教育の徹底</li> <li>・ 危機管理体制の徹底</li> </ul>
教育活動の改善及び質の向上	<p>「学校に行くのが楽しい」「私は，学校からのいろいろなお便りを，きちんと家の人に渡している」に対して，児童の肯定的な回答はそれぞれ85%，89%となり，昨年度よりも，9ポイント減少した。</p> <p>また，「子どもは，学校生活を楽しんでいる」は97%であり，昨年度とほぼ同様の結果となったが，「学校からの『おたより』や『ホームページ』の内容は，学校の様子を知るために役立っている」の項目は，89%で昨年度とほぼ同様の結果であった。</p> <p>「学校だより」「学年だより」「ホームページ」等をさらに充実させることにより，様々な行事等を通じて，本校の教育活動に対する保護者の信頼が十分得られるように努めていく必要がある。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校評価による検証改善</li> <li>・ 「学校だより」「学年だより」「ホームページ」等の充実</li> </ul>